

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム さつま苑
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県伊佐市大口針持 1235-8
記入者名 (管理者)	左近充 久子
記入日	平成 22 年 3 月 6 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、その人らしく暮らすという地域密着型の意義を、スタッフが理解し事業所独自の理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフと利用者が毎日理念を唱和し、それぞれが自分の事とし、実践している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時、家族に苑の理念を話しているが、さらに家族や地域の方々に、理解していただけるように取り組んでいきたい。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接の温泉施設の、お客さんとのふれあいや、近所の方が野菜を届けたり、頂きに伺ったり、花の苗を分けたり頂いたり、日常的な付き合いがある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園・小学校との交流会、老人会や地域住民との沿道のコスモス植え、催し物の開催時には地域の方を招待したりと、交流を持っている。	小学校・校区主催の運動会への参加。小学校の学習発表会への参加。校区コミュニティ主催のひなまつりへの見学。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○	小中学生の職場体験の受け入れ。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		家族代表の方から職員に対する心温まる意見も頂いている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		国・県の機関誌による研修を行っている。(コピーにて)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。又、本人・家族に決定・同意をして頂いている。		受診・緊急時の対応、苑の理念・基本的運営方針・リスク・料金等、納得して決定して頂いている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・不満・苦情は、その都度対応し介護記録・申し送りノートに記録し、スタッフ全員で共有し、改善していけるように取り組みをし、ケアの向上を図っている。	○	気兼ねなく不満・苦情が言え、又、それを聞き入れる環境づくりを、今以上に整えたい。声に出来ない心を感じとれるケアを行っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時や必要に応じて、状態の変化・生活の様子を伝えている。遠方の家族に対しては、電話等で報告を行っている。個々の出納張も入所費請求時に、一緒にコピーして確認をしてもらおうと共に、入金時には原本を確認してもらい、サインを貰っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際、説明を行い、第三者機関の連絡先を玄関に掲示している。出された意見は即、検討し、結果を本人のみならず、運営推進委員会でも報告するようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個々の、その方らしい暮らしを支えられるよう、パート従業員に応援をもらい乍ら、余裕のある勤務体制をとっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットのスタッフは固定し、利用者が馴染みのあるスタッフによる支援を受けられるようにしている。また、スタッフが他のユニットの利用者との交流を図っている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の内容をスタッフに報告し、実践できることは取り入れている。スタッフが、研修会に参加できるように取り組んでいる。国・県のグループホームの協会の機関誌での研修を行っている。	○	地域密着型主催の「認知症」の研修に、ほぼ全員が出席できた。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流があり、相談や情報交換を行っている。全国・県のグループホーム協会の機関誌等による研修を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	時間調整を工夫し、スタッフが休憩できるようにしている。親睦会を設け、スタッフ間で話をする機会を作り、気分転換やストレス発散が図れるように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けた支援を行い、研修等への参加を呼びかけ、各自、向上心を持って働けるよう努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家族・本人と面談し、心身状態・生活歴・本人・家族の希望を伺い、又、苑を見学していただき納得して入所して頂けるようにしている。		入所当日の夜勤者には、今までの生活状況を詳しく説明し、不安のない夜を過ごしていただくよう努めている。管理者も出来るだけ泊まるよう心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立ち、困っていること、不安なこと、求めていることを伺い、思いを受け止め、信頼関係作りに努めている。	受診先については、本人・家族の思いを十分に聞いて決定するようにしている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の今一番困っていること、不安に感じていることを、しっかり聞いて、対応が不可能なことは他のサービス等が受けられるように援助している。	地域住民より相談を受ける事があり苑で対応。地域民生委員や地域事業所と連携を図り、必要なサービスが受けられる援助をしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人・家族に面談し、関係作りに努めている。入所前に苑の見学をして頂き、雰囲気少しでも感じとって安心して入所して頂けるようにしている。	急な入所や、退院と同時に入所となる方には、ケアマネや管理者が面会させてもらい馴染みの関係作りに努めている。入所時は迎えに行き、少しでも安心して頂けるよう配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは利用者より教わることも多く「人生の先輩」とし尊敬している。理念を元に、一緒に生活する家族と位置付け「互いにくつろぎ 互いに安らぎ」という関係を築き支え合っている。	朝の掃除・洗濯物干し・たたむ・食事作り・後片付け等、一緒にしている。季節の行事や伝統的行事・風習等、何かと教えていただくことが多い。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	その方の日常の生活の様子・変化等、気付いたことを、家族に伝え、情報の共有化をし、家族の思いに共感し、一緒にささえていく気持ちであることを伝えている。	小さな変化でも家族に報告し、喜怒哀楽を共にし、相談しあっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	離れて生活されていても、家族の顔を見た時の嬉しそうな表情が一番で、家族との関係を一番大切にし、行事の誘いをしたり、本人の思いを伝えたりし、電話で話をしたり、会える機会を作っている。	家族の面会や電話は、入所者にとってかけがえのないものです。帰宅願望のある利用者の方には、電話したり面会のお願いをしたり、面会に出かけることもある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通り慣れた医師の往診や通院をし、昔ながらの顔馴染みの方との交流を続けている。近所の友人宅への訪問も支援している。又、友人・知人の面会時は、ゆっくり話をし、支え合えるよう支援している。	○ 近隣の方宅への訪問。自宅訪問・墓参り・法事等への支援。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者それぞれの性格・状況を把握し、トラブル時は、本人の気持ちに寄り添い対応し、決して孤立することのないように、スタッフと利用者が調整役に徹し、共に暮らしている。	利用者の方々との共通の話題を引き出し、皆で話題に参加できる雰囲気作りに努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や施設入所の方に、見舞い・面会に出かけている。退所された家族の方々の方々の来苑もあり、現在の状況を話されたり、写真を見せて下さったりしている。	家族が遠方で見舞いに来れない時は、ケアマネや管理者が見舞いに行き、状況を家族に伝え、喜んでもらっている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを受け止め、場合によっては家族を交えて検討し、本人の意向に添った暮らし方に努めている。	本人の希望を聞き、外出や電話ができるように支援している。困難な場合は、本人が納得して頂くまで話し、理解して頂いている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報を収集し、これまでの暮らしの把握をしている。	個人情報には十分注意して、情報収集に努めている。今後もプライバシー保護を図りたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの本人の暮らし方を把握し、安全に生活することを第一に考え、他方面より全体像を把握するよう努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや希望・主治医の意見・スタッフの気付き・アイデアを反映させるようにしている。ケアマネを中心にスタッフ間で話し合い計画を立てている。	個別の支援を大切にしよう心がけ、家族・本人・スタッフと話し合い、その方に合った介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その方の、日々変化する状況を念頭に、本人・家族の要望・主治医の意見を取り入れて、期間終了前に見直し、その方の状態に応じて期間前での見直しをしている。	入院や、その方の状態に応じて期間中であっても、介護計画の見直しをする。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者のその日の様子をケース記録へ記入し、申し送りやミーティングにて情報を共有している。又、ケース記録にて日々の変化を評価し、介護計画の見直しを行っている。	休みのスタッフが出勤したら、目を通して把握できるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、受診は対応している。外出・外泊等も本人・家族の希望に応じている。	買い物や墓参り等、希望に応じている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らし続けられるよう、民生委員・老人クラブ・駐在所・公民館長・地域コミュニティの代表者等に、苑の行事に参加してもらい意見交換する場を設けている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて、近くの理美容室を利用している。家族が面会に来られた際、一緒に隣接する温泉を利用してもらう事もある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、本人・家族からの意向や必要性のある方は在せず。	ご本人や家族の意向があれば、対応し支援する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からの主治医を希望される方には、通い慣れた医療機関に定期的に、又は、心身状態に合わせた受診の支援をしている。家族が同行できない方には、職員が同行、受診し、日々の様子を報告するような体制をとっている。	家族が同行される方には、日々の様子・変化をメモして主治医に報告してもらうようにしている。又、家族同行でも必要であれば職員も同行して主治医との情報交換をし適切な医療が受けられるようにしている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医を受診し、利用者個々の認知症の変化を見極めてもらい、助言・指導を含めた相談にのってもらっている。今後、予想される変化や対応方法を助言してもらう事で、スタッフ間で話し合い早期に対応できている。	本人・家族と相談し、主治医に紹介状をもらい、専門医を受診し診断、今後の変化を家族を含めて聞くことができ、早い段階で将来について考える機会になっている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者個々の主治医・苑の協力医に気軽に相談させてもらい、緊急時にも対応してもらっている。	苑に看護スタッフがおり、必要に応じて対応・指導・助言をもらっている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族を交えて担当医と話し合い、苑での対応可能な段階でなるべく早期退院できるように取り組んでいる。入院時は苑での本人の状態を、病院側へ詳しく情報提供すると共にスタッフも面会に行き状態を見守っている。	スタッフが面会することで、本人も安心され家族の負担を減らし安心して頂けている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況の変化を家族に報告・相談しながら、家族の意向を確認し、主治医やスタッフと話し合いを行っている。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族・主治医と連携をとりながら、苑で出来ること、出来ないことを話し合い対応している。出来ない時は、医療機関施設にお願いするようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が戸惑う事が最小限に食い止められるよう本 人の状況・習慣・好みや・支援の内容・苑でして いた工夫など、細かな情報提供を行い、住み替え によるダメージを最小限にするように努め、ス タッフが訪問する機会を作っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	その方の人格を尊重し、認知症からくる言動もそ の個性として受け入れ、否定しないように努 めている。地域密着で地域と協力する中で、個人 情報保護法の理解に努めている。	個人情報保護法の理解を全スタッフがし ている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	食事や入浴、その日に着る服など日常生活の中 で、その方の希望を聞きながら、自由に選んでい けるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	一日の流れを、その方の体調・希望・思いを大切 に、その方のペースに合わせて見守り、時にはス タッフがゆっくり対応する等、柔軟な支援をして いる。	入浴に関して、行事等で午前の入浴にな ることもあるが「たまには朝風呂もいい ね。」との言葉聞かれる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	その日に着る服を自分で選んだり、一緒に選んだり 行事や外出時には、特に自分らしいお洒落が出 来るように支援している。本人の希望に合わせて 、理美容室を利用される方、職員にカットして もらう方、その方に合わせて支援している。	本人の好む化粧品を購入し、外出時や行 事の際は自ら化粧をされ、お洒落をされ ている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考えたり、畑に野菜を採り に行ったり、出来る方には一緒に調理をしたり、 洗い物をして頂いたりしている。職員も一緒に、 食事をしている。	台所の作業が難しい方にも、テーブル上 にて野菜の下ごしらえや味見をしてもら い、下膳もできるかたには行ってもら っている。その食事の都度、味の感想を聞 いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時と3時にお茶の時間を設けて、それぞれ好きな飲み物を出している。それ以外でも、その方の飲みたい物、食べたい物を、その人の状況に合わせて楽しめるように支援している。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その方の排泄パターンを職員は把握し、さりげないトイレの声かけ・誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。カーテンをする等、プライバシーにも配慮している。	さり気ない声かけ、徹底されている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・順番・お湯の温度等、本人の希望に合わせて入浴できるようにしており、脱衣所にはカーテンをつけ、プライバシーを守り、その方に合った支援で一人ずつ入浴を楽しんで頂いている。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩・体操・レクリエーション・掃除など、その方に合わせた日中活動を促し、ゆっくり眠れるようにしている。その方の疲れ具合を見て、休息の声かけをしている。夜間不眠の方には、主治医と相談して薬剤を含めた安眠策をとっている。	昼食後は、夜間の睡眠に支障がない程度のお昼寝を促している。夜間寝付けない方には、職員と話をしたりし不安を取り除き入眠できるように支援している。薬剤使用の方には、歩行不安定となる事があるので気を付けている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや掃除・後片付けなど出来る仕事をしてもらい、感謝の言葉を伝え、役割を持つ喜びを支援している。皆さんと相談しながら、花見に出かける機会をつくったり、季節の行事を楽しみながら行っている。	皆で相談し、利用者・職員全員で外出に出かけている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、お金を持っている安心感と苑で預かっている方でも、自分で好みの物を購入し支払いをする場面作りをしている。使用状況は、さり気なく把握させてもらっている。	


項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に配慮しながら、気分転換を肌で感じて頂けるように散歩をしたり、季節毎の花見・ドライブに出かけたり、買い物に出かけたりしている。	気候のいい日は玄関先に出て、お茶を飲んだり苑の周りを散歩している。近隣の方宅の野菜を頂きに職員と一緒に出かけられる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅や墓参り・学校訪問等、本人の希望に添って職員や家族と話し合い、協力で実現に向けての取組みをしている。家族・地域の住民と花見をする機会を作り、外で弁当を食べている。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に添って対応している。	年賀状や暑中見舞いを、直筆にて一言添えて家族等に出し、家族さんより大変喜びの声が聞かれました。又、家族さんの方からのハガキ等を見て、利用者も喜ばれていました。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会ができるように、面会時間は決めていない。ゆっくり話ができるよう、談話室や居室に案内し、お茶をお出しし職員が明るく笑顔で迎えている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害を職員全員が理解して、身体拘束をしないケアの取組みをしている。	機関誌等による研修を行っている。(コピーにて)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、利用者の行動の見守りと玄関のセンサーが知らせてくれ、外に出られるような時は、自然な声かけと、さりげなく付き添いしている。	緊急・急用時でスタッフの人員が少なく見守りに限界のある時は施錠している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に見守り・声かけをし、居場所を確認している。プライバシーにも配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険防止の為、薬は鍵のある場所に管理している。洗剤・刃物は、利用者の状況の変化で注意をし、危険防止するため職員間で話し合い、保管場所を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態やリスクを把握し、スタッフ全員が共有意識を持ち、見守りをし事故防止に取り組んでいる。また、ひやりハットの記録・事故報告書を作成し、予防策とし活用している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアル・異常時の早期発見マニュアルを作成し、全スタッフに配布しているが定期的に研修実技の訓練は行っていない。	○	専門職による緊急救命訓練の実施予定。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て、避難訓練・消火器の使用方法など利用者・運営推進委員と一緒にしている。地域の協力体制については、地元消防団・自治会・近隣住民・運営推進委員会議で協力を呼びかけている。		夜間災害に対する訓練を実施。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の予測されるリスクについては、家族と話し合いをしている。又、日々変化する状態・状況によって見直し対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は一人ひとりの普段の様子を把握した上で、日々の観察の中で体調・表情の小さな変化を見逃さないように努めている。変化に気付いた時は、すぐケアマネに連絡し、スタッフ間で情報を共有・記録し状況により主治医への報告・受診につなげている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋は、ケース記録にコピーしファイルしつつでも見て薬の内容・副作用が把握できるようにしている。服薬時は、本人がきちんと服用されたのを確認している。	臨時薬や薬の変更があった時は、申し送りやケース記録への記載・申し送りノートへの記入で、全員が把握できるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に努め、食事の中で食物繊維や乳製品が摂取できるように取り組んでいる。又、散歩やリハビリ体操等で体を動かす機会を取り入れ、自然排便できるように取り組んでいる。	自然排便が困難な方については、主治医と相談し薬を処方して頂き、排便の様子を観察し、対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの大切さをよく理解しており、利用者個々の状態に応じた口腔ケアを、毎食後支援している。毎週一回、確実に薬による義歯洗浄を行っている。	機関誌による研修を行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を毎日チェックし記録している。献立は記録を取り、同じメニューが重ならないようにしバランスのよい食事と、個々の好みも反映した支援をしている。又、水分量も把握し脱水症状をおこさないように気をつけている。	糖尿病の利用者に対しては主治医の指導のもと、汁物を薄めたり量を控え本人からの不満がないように盛り付けに工夫している。毎月、体重測定を行い変化に気をつけている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対応マニュアルを作成し、手洗い・うがいの励行、消毒等その都度行っている。インフルエンザの予防接種を受けている。	毎食前の石鹸を使った手洗い・お茶うがいを徹底・実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫をまめにチェックし、食材の管理・掃除をしている。まな板・布巾の漂白・食器使用後の乾燥等、衛生管理に気をつけている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	同敷地内に温泉施設があり、利用者の家族・友人・知人が温泉帰りに気軽に立ち寄られている。玄関周りには四季折々の花を植え、利用者が椅子に座り、季節感を味わったり、お茶を飲めるスペースがある。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・照明・室内の温度は、その場に居る人に合わせて調整している。苑が国道沿いにあるが騒音はない。台所から聞こえる食事作りの音や匂い、又、食堂より見える苑で作っている季節の野菜や花を見、生活感・五感への働きかけを工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関まわりや、食堂に椅子・ソファを置き利用者が一人でくつろいだり、気の合った方と話をしたり、外気浴やお茶を飲んだりして過ごせる工夫をしている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族にお願いし使い慣れた家具・雑貨・日用品を持ち込んでもらい、家具の配置も本人の希望を聞いて使いやすい工夫をし、居心地よく過ごせるように工夫している。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調の温度調整は職員は常に気をつけている。室温は、本人の状態や利用者の希望を聞きながら、外気温と大きな差がないよう配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	ベッドの高さをその方に合わせている。個々の身 体機能に合わせた手すり・車椅子・杖を、浴室・ 浴槽に滑り止めマットを使用し、その方の持てる 力を活かした安全な生活が送れるように工夫をし ている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	その方にとって混乱や失敗の原因について、職員 間で検討し、一人ひとりのかかわる力に応じた環 境を整えるよう努め、自立した暮らしを支援して いる。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	遊歩道が整備されており、車椅子の方もスタッフ と一緒に散歩され、草花や畑の野菜の成長を見守 り、野菜を収穫したり、その方に合わせた活動が できるようにしている。	玄関前の庭を利用して、屋台感覚で焼き そばを作り、その光景を楽しまれたり、 味を楽しまれたりした。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

同敷地内に温泉施設や民宿があり、遠方からみえる家族や知人も希望があれば宿泊できます。